

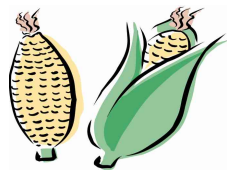
まきどき・植えどき・収穫どき  
どきどき情報 7月

No83

2010年  
7月 1日発行

野菜の作業 梅雨明け後はダニなどの害虫が増加します。  
畑を良く観察し適期防除を行いましょう！

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・コマツナ</li> <li>・ニンジン</li> <li>・ダイコン</li> <li>・カブ</li> </ul> <p>など</p> <p>高温と乾燥で発芽が悪くなります。播種前後の灌水、発芽までの遮光、夕方涼しくなってきたからの種まき、芽だししての種まきなど工夫してみましょう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チンゲンサイ</li> <li>・キュウリ（抑制栽培）</li> <li>など</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>収 穫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・青ジソ</li> <li>・スイコーン</li> <li>・ピーマン</li> <li>・キュウリ</li> <li>・トマト</li> <li>・ユウガオ</li> <li>・ジャガイモ</li> <li>など他多数</li> </ul>	<p><b>【果菜類の収穫判断の目安】</b></p> <p>果菜類は、大きさや着色具合などで収穫を判断する機会が多いが、作型や品種、天候などにも左右されることから品種特性などを理解することも重要となります。</p> <p>しかし、大きさや着色だけでは判断しにくいものもあることから、そのいくつかについて紹介しますので参考にしてください。</p> <p><b>スイートコーン</b> 一般的に雌穂の毛色が茶色になったときといわれますが、穂先から絹糸(雌しべ)が出てから<b>20～25日後</b>が食べごろといわれています。実際は、何本か試しむきをし成熟度合いを確認します。</p> <p><b>スイカ・メロン</b> スイカの収穫の目安として「巻きひげが枯れたら」とか叩いたときの音が「ボンボンと響くようになったとき」などの目安がありますが、特に出荷する場合は、開花したら割り箸などを使い開花日や受粉日を記入し立てておき、収穫の目安とします。</p> <p>そして、開花後<b>50～55日</b>になったら「試し割り」を行い熟度を確認し収穫するようにします。</p> <p>なお、小玉スイカは大玉スイカに比べ熟期が早いことからとり遅れのないよう注意しましょう。</p> <p>また、メロンは品種などにより異なりますが、<b>開花後35日頃</b>になったら試し割りをし熟度を確認します。</p> <p><b>カボチャ・ズッキーニ</b> カボチャには、西洋種・日本種があり、西洋種ではヘタがコルク化して変色・細かい亀裂が入った頃が収穫適期などの目安がありますが、開花日を畑全体でおおよそチェックしておき、開花後品種により差はありますが、<b>40～45日後</b>に果肉色、味などを確認してから収穫しましょう。</p> <p>なお、ズッキーニは<b>開花後4～6日</b>で収穫適期となります。</p> <p><b>キュウリ（参考）</b> きゅうりは、大きさで収穫しますが、<b>開花後6～10日</b>で80g～120gになります。</p>



樹の栄養状態の判断

開花位置で判断：ナス

茎葉の形で判断：トマト



【追肥実施の判断と追肥量の目安】

トマト

第1回目の追肥は第3～4果房の開花期に行いますが、生長点から10～15cmあたりの葉の巻き具合や茎の太さで判断します。

左の図のように葉がお皿を伏せた程度の曲がり具合で葉の色も濃くみずみずしい状態では栄養状態が良いと判断できますが、葉柄が細く節間が間延びし葉がバンザイしたようなY字型で色があせたような状態は栄養不足といえます。

ナス

ナスの追肥は、1番果の収穫時期から行いますが、上の図のように花より先に葉が4枚以上展開し、右ページのように長柱花（雄しべより雌しべの方が長い花）が多い場合は健全な状態と判断できますが、葉の枚数が少なかったり、花が小ぶりであったり、また、雌しべが雄しべより短い花が多い場合は栄養不足といえます。

**ナスの栄養診断**



**キュウリ**

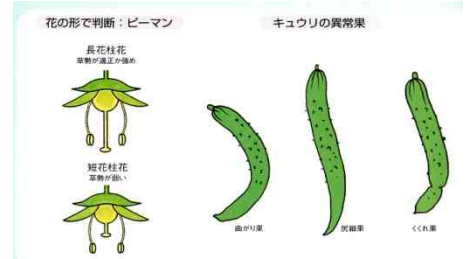
キュウリは、収穫始めの頃から定期的に追肥を行いますが、下の図のような不良果（曲がり果、尻細果、くくれ果など）が増加した場合は、追肥を行うとともに摘果などにより株の負担を減らし、草勢の回復を図ります。

また、少量ずつでの多回数かん水に心がけましょう。

**ピーマン**

ピーマンの草勢は生長点付近の様子で判断しますが、生長点付近の節間が短く葉が小さくなり、そして生長点近くで花が咲き、右の図のように短花柱花が多くなると栄養不足といえます。

一般的に収穫最盛期に入ると草勢が強すぎになることはほとんどなく、追肥が必要となります。



1回あたりの一般的な追肥量の目安（窒素の成分量で表示していますが、成分割合が例えば10%の化成肥料ではこの10倍が施用量になります。）

品目	10a当り追肥量	a当り追肥量	1株当りの追肥量（目安）* 追肥の標準的な間隔 [標準的なa当りの定植本数]
トマト	3 kg 内外	0.3kg 内外	1.2 g ~ 1.3 g /株 * 1週間 ~ 10日間隔で。 [240 ~ 250本/aとした場合]
ナス	3 ~ 5 kg	0.3 ~ 0.5kg	4 g ~ 5 g /株 * 10日程度の間隔で。 [80 ~ 100本/aとした場合]
キュウリ	3 kg 内外	0.3kg 内外	3 g ~ 3.3 g /株 * 5 ~ 10日間隔で。 [90 ~ 100本/aとした場合]
ピーマン	3 kg	0.3kg	1 g ~ 1.3 g /株 * 10日 ~ 2週間間隔で。 [240 ~ 250本/aとした場合]



**農業豆知識**

**果菜類の管理しやすい仕立て法（事例紹介）**

果菜類は長期に渡り収穫を行う品目が多く、支柱立てや整枝などの作業がともないます。

トマトやキュウリなどについては、比較的知られていると思われるので、今回は「ナス」の仕立て方法について紹介します。

**支柱立てと誘引**

ナスの整枝方法の一つにV字型誘引整枝法があり産地などでは利用されています。

右図のように側枝が発生する前に鉄パイプか竹で本支柱を立て、上辺と下辺に針金(14番線)を張ります。その間に生育に応じ20~25cm間隔で誘引テープを張り、これにナスの枝を誘引する方法です。

なお25cm目程度の誘引ネット(キュウリネットなど)を利用すると誘引作業の省力化や強風時のスレ果の発生軽減につながります。

**整枝と摘葉**

整枝法としては、主枝から発生する側枝は花(蕾)の上1葉を残して摘心し、収穫時に2芽を残して切り戻します。このような整枝方法は8月上旬までとしますが、樹体があまり大きにならない場合は弱枝や徒長枝、下部側枝の間引き剪定を中心とした簡易整枝方法とします。

なお、石ナス化など栄養生長が盛んすぎる場合は、摘葉により栄養生長と生殖生長のバランスを保ちます。また、更新剪定は、収穫期の短い普通栽培では、効果が期待できないので行わないこととします。

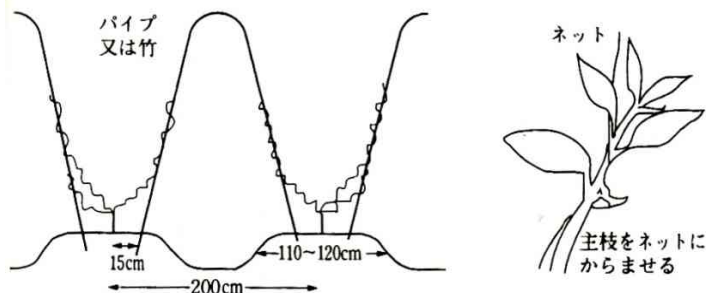


図2 V字型誘引法

長野県野菜栽培指標より引用